



第4章 歴史文化資産の把握と調査

第1節 既往調査の成果と現状

歴史文化資産の調査は、本市だけでなく、国・県・団体・個人などにより様々に行われてきました。これまでにどのような調査が行われてきたかを以下に示します。

1 沼津市による調査

本市では自治体史の刊行のほか、博物館・図書館などが様々な歴史文化資産の調査を積極的に行ってきました。

(1) 市史・村史刊行編さんに伴う調査

戦後の市町村の大合併が行われた昭和30年（1955）以降に、本市域に成立していた沼津市、^{はらまち}原町、^{へだむら}戸田村において、自治体史が編さんされています。昭和33年（1958）から昭和36年（1961）にかけて『沼津市誌』、昭和38年（1963）には『原町誌』を刊行しました。平成に入って以降は、平成8年（1996）から平成21年（2009）に『沼津市史』を刊行し、平成26年（2014）から平成28年（2016）には『戸田村史』を刊行しました。自治体史の編さんのため市内の様々な歴史文化資産の調査が行われ、その成果は『市史研究』などにも発表されています。

刊行物名など	編著者または発行者	発行年	備考
沼津市誌 全	沼津市郷土研究会	1937	
沼津市誌 上巻・中巻・下巻	沼津市	1958～1961	資料集参照
原町誌	原町教育委員会	1963	
江藤・増山家古文書目録	沼津市教育委員会	1991	
民俗報告書 一～八	沼津市教育委員会	1992～1999	資料集参照
沼津市史研究 1～19	沼津市教育委員会	1992～2011	資料集参照
石仏・石神報告書 一～四	沼津市教育委員会	1993～1998	資料集参照
市史叢書 一～十一	沼津市教育委員会	1993～2009	資料集参照
沼津市史 史料編（計8巻）	沼津市	1996～2004	資料集参照
沼津市史 資料編 考古・自然環境・民俗（計3巻）	沼津市	1999～2002	資料集参照
上香貫霊山寺の近世墓	沼津市教育委員会	2002	
沼津市史 別編 絵図集	沼津市	2004	
沼津市史 通史編（計4巻）	沼津市	2005～2009	資料集参照
統計資料集	沼津市教育委員会	2006	
沼津市史 通史別編 漁村編・民俗編（計2巻）	沼津市	2007～2009	資料集参照
戸田村史 通史編・民俗編	沼津市	2014～2016	資料集参照

(2) 博物館・図書館による調査

本市では、沼津市^{れきしみんぞくしりょうかん}歴史民俗資料館、沼津市^{めいじしりょうかん}明治史料館、沼津市^{するがとしょかん}立駿河図書館（現市



立図書館)によって市域の古文書や民俗などの調査を積極的に行っており、その成果は各館が発行する資料集に示しています。

刊行物名など	対象	編著者または発行者	発行年	備考
図書館郷土資料叢書 1～14	—	駿河図書館	1971～1983	資料集参照
沼津資料集成 1～19	—	駿河図書館	1974～1992	資料集参照
沼津市博物館紀要 1～48 (旧沼津市歴史民俗資料館紀要) (今後も刊行継続の予定)	—	歴史民俗資料館 明治史料館	1976～2024	
歴史民俗資料館資料集 1～34 (今後も刊行継続の予定)	—	歴史民俗資料館	1979～2024	資料集参照
沼津市明治史料館史料目録 1～43	有品	明治史料館	1987～2011	資料集参照

(3) その他の個別歴史文化資産調査

本市では、市内における個別の歴史文化資産や特定地域の調査を実施しています。

刊行物名など	対象	編著者または発行者	発行年	備考
沼津内浦の民俗	民俗	沼津市教育委員会	1976	
沼津静浦の民俗	民俗	沼津市教育委員会	1977	
大瀬崎のジャクシン樹林環境調査報告書	天然	沼津市教育委員会	1979	
江浦の水祝儀	民俗	沼津市教育委員会	1986	
高尾山古墳発掘調査報告書	埋文	沼津市教育委員会	2012	
旧沼津御用邸調査報告書	名勝	沼津市教育委員会	2016	
史跡興国寺城跡調査報告書	遺跡	沼津市教育委員会	2019	

2 国・県による調査

国や県が実施した調査には、本市の歴史文化資産も含まれているものがあります。

(1) 大規模調査

国によって行われた全国規模の調査や静岡県が実施した全県調査の成果は次のとおりです。文化財部局だけでなく、建築や環境関連部局が行った調査もあります。

調査報告刊行物名など	対象	編著者または発行者	発行年	備考
静岡県史蹟名勝天然記念物調査報告	遺跡・名勝・天然	静岡県	1925～ 1950	
河内堂山の大黒杉(河内の大スギ)、駿東富士の古墳(長塚古墳)、西浦村木負稀有の蜜柑古樹、土器累積層発見地(金岡西五反田)(広池遺跡)、大岡古墳、浮島古墳、興国寺城址、鷹根古墳、ほか				
静岡県遺跡地名表	埋文	静岡県教育委員会	1961	
沼津市、原町、戸田村の遺跡計459か所				
静岡県民俗資料緊急調査報告書	民俗	静岡県教育委員会	1966	
戸田				
天然記念物緊急調査	天然	文化庁	1971	
千本のクロマツ林、愛鷹山の自然林、愛鷹山のブナ林、愛鷹山のササ原、浮島沼のヨシスゲ湿原、千本浜の海岸草原、愛鷹山の落葉針葉樹の植林、沼津のヒメアマツバメ営巣地、ほか				
静岡県の民家	有建	静岡県教育委員会	1973	
伊藤嘉六家住宅、伊藤作次郎家住宅、江藤不二夫家住宅、鈴木康国家住宅、西山秀家住宅、稲木重保家住宅				
静岡県民俗地図	民俗	静岡県教育委員会	1978	



第4章 歴史文化資産の把握と調査

調査報告刊行物名など	対象	編著者または発行者	発行年	備考
【井出・静浦・長浜・立保・井田】屋敷数、屋根型、部屋の名称(台所)、いろいろの名称、いろいろの用具、いろいろの座名(主人)、同(客)、同(下座)、あくぬきする主食物、だんご(まゆ玉)、ほか				
静岡県の近世社寺建築	有建	静岡県教育委員会	1979	
赤野観音堂、光長寺仁王門、禅長寺頼政堂、大中寺鐘楼門、妙泉寺表門、連窓寺表足門、松蔭寺山門				
静岡県の無形民俗文化財	民俗	静岡県教育委員会	1980	
戸田の漁師踊・漁師唄				
静岡県の歴史の道調査報告書-東海道-	遺跡等	静岡県教育委員会	1980	
(古代中世)浮島ヶ原、原中宿、六代松遺跡、甲州街道、千本松原、三枚橋城、車返しの里、ほか (近世)木瀬川(黄瀬川)橋、黄瀬川板橋、立場(黄瀬川)、 ^{なてはだじくい} 榜示杭、一里塚、蓮光寺、ほか				
静岡県の中世城館跡	遺跡・埋文	静岡県文化財保存協会	1981	
真城山、城山(石川)、阿野館、興国寺城、小屋敷(東椎路)、後藤屋敷(土井)、東熊堂砦、土圀(大岡中石田)、三枚橋城、沼津城、大平新城、獅子浜城、城山(重寺城・小城山)、松下館、ほか				
静岡県自然環境基本調査 社寺林	天然	静岡県生活環境部自然保護課	1983	
新田山の神神社林、大瀬神社林、久連神社林、重寺白山神社林、青野妙泉寺林、井出大泉寺林				
伊豆における漁撈習俗調査Ⅰ	民俗	静岡県文化財保存協会	1986	
戸田と遠洋漁業、戸田の遠洋カツオ・マグロ漁業、アフリガン遭難記録				
静岡県の民謡	民俗	静岡県教育委員会	1986	
荷造り唄【久連】、伊勢音頭【戸田・金岡・東椎路】、祝い唄(せぎり唄)【戸田】、街道口説【久連】、毬つき唄【東熊堂】、子守歌【東熊堂・大岡】、盆唄【東熊堂・東椎路】、茶摘み唄【東椎路】、ほか				
静岡県の諸職	民俗	静岡県教育委員会	1989	
籠屋【三津杉村弘男】、畳屋【戸田高田春吉】、漁網【戸田小林稲雄】、家大工【戸田野田潤次】、表具師【大手町加藤正志】				
静岡県の歴史的建築物・歴史的町並み	有建・景観	静岡県都市住宅部建築課	1990	
河内海瀬家住宅、松城家住宅、旧沼津御用邸西附属御殿、長浜大川家長屋門、平沢老人いこいの家、柳沢の集落、内浦の漁村集落				
日本の巨樹・巨木林(東海版)	天然	環境庁	1991	
ビャクシン28本・イヌマキ3本・クロマツ3本【大瀬神社】、イチヨウ【西町浅間神社】、クロマツ(播鉢松)【東町松蔭寺】、クスノキ2本【本田高木神社】、ほか				
静岡県の民俗芸能	民俗	静岡県教育委員会	1997	
重寺の人形三番叟、はだかまつり【江浦】、口野のせち太鼓、多比おせち太鼓、江浦の水祝儀、伊勢おどり《静岡浦》、重寺のせち太鼓《内浦》、大平4区神楽、大瀬まいり、天形星皇牛頭天王《大平》、ほか				
静岡県の近代化遺産(建造物)	有建	静岡県	2000	
門池、同配水塔、御成橋、西浦村役場、光長寺御宝蔵、東京都立沼津戦時疎開学園、沼津御用邸、渡辺酒造仕込庫、同石蔵、多比隧道、旧海軍技術廠音響兵器部棧橋(海軍棧橋)、ほか				
静岡県の祭り・行事	民俗	静岡県教育委員会	2000	
大瀬まつり、江浦の水祝儀、江浦の裸詣り、ヒャクハットウ 口野、天神さん【大諏訪】、白砂運び【日枝神社】、お不動さん【我入道】、吉田さん【楊原神社】、輪くぐりさん【浅間神社】、ほか				
静岡県の近代和風建築	有建	静岡県教育委員会	2002	資料集参照
安田屋旅館松棟、同月棟、沼津倶楽部、旧沼津御用邸東附属邸、同西附属邸、松城家住宅、大中寺恩香殿・通玄橋、学習院沼津游泳場、旧広田家別荘(静海荘)、植松家住宅臨春亭、ほか				
農林水産業に関連する文化的景観の保護に関する調査研究(報告)	景観	文化庁	2003	
浮島沼と富士山、愛鷹山麓の茶畑、西浦みかん畑				
伊豆半島の石丁場遺跡	埋文	静岡県教育委員会	2015	
石丁場遺跡(戸田、西浦、内浦)				
近現代建造物緊急重点調査(建築)報告書(静岡県編)	有建	日本建築士連合会	2020	文化庁の委託事業
沼津市公会堂、沼津本通防火建築帯、沼津市産業会館、図書印刷沼津工場、沼津上土通防火建築帯、城内学園、図書印刷原町東工場、沼津市庁舎、沼津市芹沢光治良記念館、ほか				
静岡県の文化的景観総合調査報告書	景観		2022	
井田の海岸防風林と水田、西浦のみかん畑、戸田の防風石垣、内浦・西浦の養殖いけす、浮島沼の水田と富士山・愛鷹山、愛鷹山麓の茶畑、松原と近代別荘群、沼津の河岸				



(2) 個別の歴史文化資産調査

県が行った本市を対象とした個別の歴史文化資産調査は次のとおりです。

刊行物名など	対象	編著者または発行者	発行年	備考
大平の民俗-沼津市-	民俗	静岡県教育委員会	1987	
井出の民俗-沼津市-	民俗	静岡県教育委員会	1992	

3 その他の主体による調査

本市や国・県以外にも、地元の郷土史家や自治会などが地域の歴史文化を調査し、その成果を刊行しています。

(1) 郷土史家による調査

本市には沼津郷土史研究談話会（沼津史談会）などの本市の歴史を研究する団体があり、その研究成果が会誌などで発表されています。また、地域住民や団体が地域の歴史を調査し刊行した貴重な地域資料もあり、代表的なものは次のとおりです。

刊行物名など	編著者または発行者	発行年	備考
嶽南史 第1～5巻	鈴木寛馬	1931～1935	
伊豆史談 1～151	伊豆史談会	1934～2021	
静岡県東部古代文化総覧	小野真一	1957	
沼津史談 1～74（今後も刊行継続の予定）	沼津史談会	1962～2023	
駿河 1～78（今後も刊行継続の予定）	駿河郷土史研究会	1965～2024	
岡宮風土記考	風間岳南	1969	
公会堂建設記念 三津の覚書	山本三朗	1976	
沼津 我入道の小史と民俗 第一部	笹原俊雄	1976	
目でみる沼津市の歴史	小野真一	1978	
大岡の神社誌 併記史話と伝説	穴倉仙治（大岡地区氏子総代会）	1979	
狩野川河口域の変遷	笹原俊雄	1979	
心の仏 西浦古字の歴史	心の仏編集委員会	1981	
伴右衛門 沼津むかし話	青木栄実	1983	
沼津・三島・清水町 町名の由来	辻真澄	1992	
静浦の年表（資料付）	長澤秀男・渡邊三義	1993	
東海道 原の屋号	原ルネッサンスの会	1999	
目で見る『富嶽館』資料集	大嶽祐二	1999	
写真と文献で見る 勝呂弥三兵衛と戸田村	勝呂安	2001	
駿東郡江浦村誌	足立実	2001	
写真集 沼津今昔100景	瀬川裕市郎	2002	
郷土誌史入門	関野新吾	2003	
興国寺城と郷土の歴史	木村昭和	2006	
東海道 原の屋敷神と講	原ルネッサンスの会	2007	



(2) 自治会による調査

本市では、連合自治会や単位自治会により地域の歴史を記録した刊行物が多数刊行されており、地域の貴重な歴史を守り残そうとする取り組みが行われてきました。

刊行物名など	編著者または発行者	発行年	備考
一本松区誌	一本松自治会	1950	
上土町のあゆみ 上巻・中巻・下巻	上土町内会（鈴木憲二）	1966～ 1970	
高島町誌 第一巻	高島町自治会	1972	
わが町千本緑町史	千本緑町自治会	1984	
ふる里 柳沢	柳沢自治会	1985	
知っておきたい西間門の歴史	西間門自治会	1988	
日吉のあゆみ	日吉自治会	1988	
わがまち吉田町史	吉田町自治会（佐山勝巳）	1988	
大手町百年の歩み	大手町町内会	1993	
町方町のあゆみ	町方町町内史作成委員会	1995	
片濱村誌稿（復刻版）	片浜連合自治会	1998	
西椎路自治会館落成記念誌	西椎路自治会（植松良行）	2001	
郷土誌 浮島	浮島地区まちづくり推進協議会	2003	
ふれあい	大岡コミュニティ推進委員会	2003	
静浦風土記	静浦地区コミュニティ推進委員会	2010	
志多町自治会町内史 志多町のあゆみ	志多町自治会	2010	
ふるさと島郷町史	島郷自治会	2016	
第一小学校創立150周年記念誌 ふるさと沼津第一	第一地区コミュニティ推進委員会	2019	

(3) 大学教員・研究所などによる調査

大学教員などによる科学研究費助成事業報告や加藤学園沼津考古学研究所などの私立の研究所による本市に係る文化財調査報告書が刊行されています。

刊行物名など	編著者または発行者	発行年	備考
駿河広池：国一バイパス建設に伴う土師式遺跡の調査報告	沼津考古学研究所	1971	
駿河東原古墳：静岡県における古墳時代装身具の研究	加藤学園考古学研究所 中部開発株式会社	1972	
駿河石川古墳群 第三次発掘調査報告書	加藤学園考古学研究所	1976	
中近世移行期における土豪と村落に関する研究	池上裕子	2005	
日本における漁業・漁民・漁村の総合的研究	岩田みゆき	2010	



4 種類別・地区別の調査状況

歴史文化資産の調査を種類別に見ると、『沼津市史』や『戸田村史』を編さんした際に概ね把握調査を実施しましたが、文化的景観や伝統的建造物群の把握調査が不足しています。また、遺跡、埋蔵文化財、石造物、建造物における近現代建造物など、全容把握には至っていないものもあります。なお、文化的景観や伝統的建造物群に関しては、文化財まちあるきマップの制作に伴う調査を実施したことにより、新たな歴史文化資産の発見につながったものもあります。

また、地区別に見た場合、建造物以外の有形文化財や名勝、天然記念物、文化財の保存技術、縁地、産業、伝承の把握調査は、全市域において実施しています。

詳細調査については、指定等文化財以外にも実施しているものがあります。

調査の種類

- ① 把握調査…歴史文化資産がどこにあるか調べる調査
- ② 詳細調査…文化財としての価値づけするための学術的調査
- ③ 現状調査…現在の状況（あるかないか・保存状態）を調べる調査

表22 種類別文化財調査の実施状況

種類	種別	略称	把握調査	詳細調査
有形文化財	建造物	有建	△	△
	絵画	有品	○	△
	彫刻		○	△
	工芸品		○	△
	書跡・典籍		○	△
	古文書		○	△
	考古資料		○	△
	歴史資料		○	△
無形文化財		無形	○	×
民俗文化財	有形の民俗文化財	民俗	○	△
	無形の民俗文化財		○	△
記念物	遺跡	遺跡	△	△
	名勝地	名勝	○	△
	動物、植物、地質、鉱物	天然	○	△
文化的景観		景観	△	×
伝統的建造物群		伝建	△	×
埋蔵文化財		埋文	△	△
文化財の保存技術		技術	○	×
未指定の石造物		石造	△	△
一般に文化財として取り上げにくいもの	縁の地	縁地	○	△
	歴史的産業	産業	○	△
	伝承・地名・方言	伝承	○	△

○：実施 △：不足 ×：未実施



表23 地区別文化財の把握調査の実施状況

種類	第一	第二	片浜	今沢	原	浮島	愛鷹	金岡	門池	大岡	第五	第四	第三	大平	静浦	内浦	西浦	戸田
有建	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
有品	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
無形	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
民俗	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
遺跡	○	○	○	○	○	△	△	○	○	○	○	○	○	△	△	△	△	△
名勝	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
天然	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
景観	△	△	×	×	△	△	△	△	×	×	×	△	△	×	×	△	△	△
伝建	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	○	△
埋文	○	○	○	○	○	△	△	○	○	○	○	○	○	△	△	△	△	△
技術	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
石造	△	△	△	△	○	○	○	○	△	△	△	○	○	○	△	△	○	○
縁地	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
産業	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
伝承	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

○：実施 △：不足 ×：未実施

第2節 歴史文化資産の把握と調査の課題

把握調査は概ね実施していますが、有形文化財（建造物）の中の近現代建造物の分野について、調査が不足していることが課題です。また、文化的景観や伝統的建造物群の把握調査は、全市域において網羅されておらず、全体像の把握に至っていません。

地区別に見たとき、遺跡・埋蔵文化財や未調査の石造物については、地域によって把握状況が偏っています。未実施区域の把握調査が今後の課題です。

詳細調査は指定等文化財以外で実施しているものもありますが、全体として不足しています。詳細な調査が未実施の歴史文化資産の中には、沼津市文化財保護審議会にて指定候補として意見が出ているものもありますが、指定に向けた詳細調査の具体的計画の策定には至っていません。

また、近現代の建造物や墓石^{ほせき}などの石造物は、老朽化による取り壊しや墓じまいによる消滅の危機に瀕しているため、把握調査と並行して詳細調査も実施する必要があります。

さらに、把握調査が行われてから時間が経過しているものも多く、既に消失してしまった歴史文化資産も数多くあり、特に詳細調査が行われた古文書については、調査から40年が経過していて、現況が不明なものもあります。このため、所在の再確認や保存状況の把握をする現状調査が必要となってきています。

なお、これらの調査に関する方針と措置については、第5章に示します。